2008

高松市・トゥール市姉妹都市提携20周年記念
市民親善使節団訪問報告書

平成20年10月22日(水)～10月29日(水) 8日間

Takamatsu International Association
財団法人 高松市国際交流協会

目　　　　次

Ⅰ　使節団派遣日程表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

Ⅱ　トゥール市概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

Ⅲ　両市交流の歩み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

Ⅳ　使節団の活動状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

Ⅴ　感　　想　　文・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17

高松市・トゥール市姉妹都市提携20周年記念　市民親善使節団派遣日程表

NO	日 付	都市 名	現地時間	交通機関	日程
1	10/22（水）	高松発 岡山着 岡山発 ソウル着 ソウル発 パリ着	6:50 8:20 9:50 11:25 13:30 18:20	専用バス KE 762 KE 901	関空へ移動 空路パリへ
2	10/23（木）	パリ パリ発 トゥール着	専用車 夕刻 夜	TGV	出発までパリ市内観光 ○ノートルダム寺院　○パンテオン ○リュクサンブール公園　○凱旋門 ○シャンゼリゼ　◎コンコルド広場 ◎エッフェル塔（シャン・ドゥ・マルス公園から） TVGにてトゥールへ
3	10/24（金）	トゥール	19:00	専用バス	終日　トゥール市内視察及び古城巡り ●シュノンソー城 ●シャンボール城 ☆２０周年歓迎式典＆歓迎夕食会 場所：市庁舎２階「祝いの間」
4	10/25（土）	トゥール	19:00 20:30	専用バス	日本文化展視察（リセ甲南学園）及び市内視察 ☆答礼宴（リッツ図書館最上階） ☆記念交流イベント参加（トゥール大学大講堂）
5	10/26（日）	トゥール ∫ モンサンミッシェル ∫ パリ	7:30 12:00 8:30	専用バス	モンサンミッシェル１日観光 専用バスにてパリへ
6	10/27（月）	パリ	午前 午後	専用バス	●ルーブル美術館 自由行動
7	10/28（火）	パリ パリ発	午前 20:25	専用バス KE 902	出発までパリ自由行動 ☆OPツアー　ヴェルサイユ宮殿観光 空路ソウル経由岡山空港へ
8	10/29（水）	ソウル着 ソウル発 岡山着 岡山発 高松着	15:20 18:25 19:55 21:00 22:30	KE 761 専用バス	到着後，入国手続き

トゥール市の概況

トゥール市はパリ南西約235km、フランスのほぼ中央に位置しています。フランスの４大河川の一つロワール川とその支流シェール川に囲まれた北フランスの中では温暖な気候と豊かな自然に恵まれた人口13万人の美しい都市です。

芸術と歴史の町トゥールは、15世紀にはフランス王国の首都になったこともあり、王侯貴族たちが自然や狩りを楽しんだ城が周囲に数多く残っているため、古城めぐりの拠点として観光客が大勢訪れます。

再開発された「ヴュー・トゥール」と呼ばれる歴史的な旧市街地区には、年間何万人もの観光客が訪れます。古い時計塔やロマネスク様式の教会などが並び、数百年の歴史の息吹を伝えて､15世紀の木骨組みの家や石造りの壁が交互に並び、カフェやレストランが一日中にぎわいます。

数年前から「芸術と歴史の町」に指定されており、史跡や歴史的建造物の積極的な活用に取り組み、市内の素晴らしい歴史的建造物、ロワール河に浮かぶ島々や河畔などを美しく浮かび上がらせるライトアップが実施され、全国大会でグランプリを受賞しました。

8世紀にはシャルルマーニュ（カール大帝）がここに多くの学校を設立したことから、今でも市内にはトゥール大学をはじめとする多くの学校や研究機関があり、学生都市としても活気と賑わいを見せています。

交通の面では、有名なオルセー駅（現オルセー美術館）を設計した建築家ヴィクトール・ラルーが設計したトゥール駅からＴＧＶ列車でパリ・モンパルナス駅までは約１時間、シャルル・ド・ゴール空港駅までは１時間45分の距離です。また毎日、数多くの直行便が運行される国際列車（リール＝ヨーロッパ国際線）で、フランス国内や欧州の大都市と結ばれています。

過去の歴史遺産に埋もれることなく、文化やスポーツの面でも豊かな市民生活を確立しているトゥール市は、フランス大西部地域を代表する主要都市として、観光･経済･学問（大学・研究）の分野で中心的な役割を果たし、都市インフラが整備された近代的な都市でもあります。

高松市とトゥール市親善交流の歩み

《高松市からの訪問・派遣》

昭和 63 年（1988 年）6 月	高松市代表団(団長脇市長)9 人 姉妹都市提携調印式に出席
平成 2 年（1990 年）5 月	トゥールフエアへの参加（団長脇市長）24 人 トゥール市で開催されたトゥールフエアに参加し、高松会場にて高松市の物産等を展示
平成 2 年～平成 7 年 （1990 年～1995 年）	毎年高松市職員留学 1 人 高松市民留学 1 人を語学研修および交流
平成 2 年～平成 7 年 （1990 年～1995 年）	中学生海外親善使節団、青年海外使節団 ホームステイ等を通じて交流
平成 3 年（1991 年）	市民海外親善使節団　市民レベルでの交流
平成 4 年（1992 年）10 月	高松市親善使節団（団長増田助役）9 人 親善交流
平成 19 年（2007 年）5 月	トゥールフエアへの参加 10 人 日本をテーマ国として開催されたトゥールフエアに参加、高松会場にて高松市の物産等を展示
平成 20 年（2008 年）10 月	高松市公式訪問団（団長大西市長）8 人 高松市民親善使節団　16 人 姉妹都市提携 20 周年記念行事に参加

《トゥール市からの来高》

昭和 63 年（1988 年）10 月	トゥール市使節団（ジャン・ジノーブル助役）8 人 姉妹都市提携調印式に出席
平成 2 年（1990 年）11 月	姉妹・友好都市フェア等への参加 22 人 高松市で開催したフェアにトゥール市が物産等を出展、 市制 100 周年記念式典や各種イベントに参加
平成 2 年（1990 年）	トゥール大学等の学生が高松市内企業で研修（約 2 ヶ月）
平成 5 年（1994 年）11 月	トゥール美術館展（クリスチアーヌ・バイヨ助役、・市議会議員） 高松市美術館での開展式参加
平成 6 年～平成 7 年 (1994 年～1995 年)	毎年 トゥール市国際交流員を行政研修生として来高（6 ヶ月）
平成 10 年(1998 年)10 月	10 周年記念事業フランス宮廷音楽合奏団「アンサンブル・フイリドール」高松公演を開催
平成 18 年(2006 年)8 月	トゥール市親善使節団（フレデリック・トマ助役）4 人親善交流
平成 20 年(2008 年)11 月	トゥール市公式訪問団（フレデリック・トマ助役）6 人 20 周年記念事業参加

使節団活動状況

10.22（水）高松～岡山～ソウル～パリ

6:30 アイパル香川集合。空はまだ薄暗い。玄関先で簡単な出発式を終えてからバスに乗り、岡山空港へ。高松市市民政策部長と関係者が見送りに来てくれた。

バスの中でベテラン添乗員の冨士川さんから為替・免税の事や、旅行中の注意事項、乾燥対策などの説明があり、都市交流や国際交流も話題にのぼった。

8時過ぎ岡山空港到着。喫茶で一休み。それから、安全チェック、出国手続きを済ませて9:50発KE762（KOREAN AIR）便で乗り継ぎ地のソウル仁川国際空港へ。

13:30 ソウル発 KE901 便でパリ・シャルルドゴール空港へ。飛行予定時間 12 時間 10 分、時差－7 時間。エンターテイメントシステムで団員それぞれが韓国、中国、ハリウッドの映画やドラマなどを楽しむなか、飛行機はロシアの上空を通過してパリへ。機内食は日本で人気のビビンバをはじめ三回も出た。

18:40 無事シャルルドゴール空港に到着。機内の窓から美しい夕日が見えた。入国手続き、荷物受け取り、19:30 第 2 ターミナルからバスで 36km 離れているコンコルドラファイエットホテルへ。ちょうど渋滞の時間帯。でも高速道路から見たイルミネーションは綺麗だった。

ガイドの榊原さんの話によると今朝の最低気温は 5 度、日中は 13 度前後だったそう。パリ上空は暖気流があり、郊外ならもっと寒いそうだ。

花の都、芸術の都、ファッションの都―パリ。

ホテルに着き、バスから降りる前、夕食の幕の内弁当が配られた。先に到着した香川日仏協会の椿さん、菅原さん、田尾さん三名とホテルで無事合流。長い一日、お疲れ様でした。

今日ホテルの為替レートは 1 万円 67.38 ユーロ。

10.23（木）パリ 1 日観光

朝 9 時ホテル前からバスに乗り、まずエッフェル塔へ。街路の並木の多くはプラタナス（スズカケノキ）、今の季節になると落ち葉がすごく、エアーで落ち葉を一箇所に集め取るそうだ。路肩に車がびっしりと駐車して出せるかしらという疑問に、バンパーで（前後の車にぶつかる）出すと説明された。

凱旋門の前を通る。一般に「凱旋門」と呼ばれているが、正式名称「エトワール凱旋門」。エトワールというのは「星」という意味。門を中心に 12 本の道が放射状にのび、その様子が輝く星のように見えることからこの名がつけられたそうだ。ここには信号はなく、凱旋門の周りを走り回る車の洪水は、事故が起こらないかとヒヤヒヤ・ドキドキする。フランスの交通ルールは自由、自己主張だそうだ。

パリ万博の会場跡の前を通って車窓からシャンゼリゼ大通が見えてきた。16 世紀まで野原と沼地しかなかった場所だが、17 世紀の中頃に整備され「エリゼの野」と名付けられた（ギリシア神話に出てくる楽園の意）。高級ブランドショップとしゃれたカフェアが立ち並んでいる。そこは既にクリスマスの準備に取り掛かっている。11 月ライトアップされるときさぞ綺麗だろうと空想しているうちに、シャン・ドゥ・マルス公園に到着。そこで高く青空に聳え立つエッフェル塔を背景に記念写真を撮った。それからルイ 16 世やマリー・アントワネットの処刑などで名高いコンコルド広場へ。広場の中央には、エジプトから送られたルクソール神殿の巨大なオベリスクが聳えている。パリ市庁舎前を通って 20 分ほど歩いてノー

トルダム大聖堂へ行く途中、道路沿いに設置しているレンタル自転車ステーションに出会った。形、色が統一され格好いい。ノートルダム大聖堂はフランスの中世文化を象徴する、ゴシック様式の大聖堂。建築、彫刻そしてステンドグラスなど、すべてが美しく、「ゴシックの最高傑作」といわれている。市内のレストランで初めての昼食。日本人団体客でいっぱい。飲み物代をテーブルでそれぞれ払うことに新鮮さを感じながら戸惑い感も覚えた。

パリ三越店に面する両替商で1万円を77ユーロに両替したら、昨夜のホテルと10ユーロも違う。

昼食後トゥール市行きのTGVに乗るまでの時間を利用して市内を車窓観光。気温が16度、リュクサンブール公園でのんびりと寛ぐ人々。音楽や放送はいっさいなし。ナポレオンのお墓がある黄金ドームや軍事博物館を遠くから見ながら、モンパルナス駅へ。あららあ！警察が道に立っている。交通事故かしら。ガイドの中里さんはバスから降りて警察に事情を話しに行ったが通してくれなかった。学校の先生達によるデモ行進で道路が閉鎖されたらしい。結局、乗る予定のTGVに遅れてしまった。17:15発の便に変更。待っている間に、有名なパン屋さんでパンを買ったり、駅の自販機で飲み物を買ったりしたが、コインを入れたのに、コーラがなかなか出てこなく結局諦めた体験もした。ほぼ貸切りみたいな車両に乗り18:11トゥール駅一つ手前St　Pierredes　Coreriode　Normaleのサンピエアデュ駅に到着。停車時間が短いため、男性団員が早めに降り口へ移動、荷物を下ろす作業にスタンバイした。

駅でバス運転手のリチャードさんとガイドのマリーズさんが出迎え。荷物をバスに詰め込んで今日泊まるMercure Tours Centreホテルへ。バスの中でお水を1ユーロで販売してくれた。

10.24（金）シュノンソー城～シャンボール城～古城巡り

9:00 ホテル出発、車窓から差す朝日がまぶしい。のどかな田園風景、蔦に覆われている郊外のおとぎ話に出るような可愛い家。白い壁に赤黒の屋根、窓際に咲く花と煙突から漂う白い煙。ほとんど平屋。沿道にはすでに収穫が終わった葡萄畑が見え、来る時期が2か月ほど遅ければ、ちょうど葡萄祭が楽しまれると。

10:05 世界文化遺産のシュノンソー城到着。城内にロワール川の支流、シェール川を跨ぐように建てられ、広大な庭園の中に気品を漂わせてたたずむ白い城館。代々女性が城主であったため、「6人の奥方の城」の別名がある。空気がひんやりと冷たい。入り口のフェンスや家の壁にはまたバラが咲いている。空を指す人間の指先かと思われるケイトの花、大きなカボチャと瓢箪（ひょうたん）などの野菜。城内の絢爛豪華ルネッサンス様式の装飾や家具調度から、当時の貴族の華美な生活をうかがうことができた。

このお城は個人の所有となっている。城の内部には、各階ごとに、たいへん見事な生け花がしつらえられている。造園と調和した優美な城の姿に魅了された。

11:15 シュノンソー城後にレオナルド・ダビンチの設計と言われる二重螺旋階段のあるシャンボール城へ。トウモロコシやひまわり畑の残りが所々にあり、その中で咲いているコスモスの群れに目を奪われた。

添乗員は花形職業と思われたが、冨士川さんの話では今や3K業界、旅行業者ではいつもガイドを募集中との事。1時間ほど走ったらバスはシャンボール城の敷地の中にある欧州最大の

森林公園に入った。道はまっすぐで地平線まで見える。

まずお城のすぐ近くにある素敵なレストラン La Grand St Michel で昼食。ハムと根セロリのサラダ、チキンのパスタ添えとケーキで優雅なひと時。

シャンボール城はフランソワ1世が狩猟用の邸宅として建てたものであり、ロワール川流域最大の城で、フランスのルネッサンス様式の建築の最高傑作と言われ 1519 年に着工した。シャンボール城の展望台から眺める晴らしい景色は言葉で言い尽くせない。言葉の貧弱さに歯がゆささえ覚えた。

3 時半シャンボール城にさようなら。バスが走りだしたら急に狐の嫁入り。車窓からブロア城、アンボワーズ城などロワールの古城巡りしながら 17:00 ホテルへ帰着。

19:00 市庁舎1階に開催された日本人画家による展覧会を見学

20:00 歓迎夕食会。市公式訪問団と共に出席。会場は歴史を感じさせる市庁舎の豪華なお祝いの間であった。団員にとって普通のツアー旅行では体験のできない素晴しい思い出になった。トゥール市関係者を始め、在仏日本人など 100 人がパーティーに出席。団員も燕尾服や背中の出るドレスまでは行かないが、優雅なマダムと格好いいムッシュに大変身。大西市長とジャン・ジャルマン市長の挨拶、記念品の贈呈に次ぎ、市民親善使節団長や香川日仏副会長の挨拶があった。その後はピアノリサイタルを聞きながら、各テーブルでトゥールの関係者や来賓と各々和やかに歓談していた。団員の多くがフランス語は無理だが、英語が少しできたら、と悔しくてたまらないようであった。

10.25（土）サンガシア大聖堂、旧市街地等見学～甲南学園日本文化祭～答礼宴

朝9時ホテル出発。まずサンガシアン聖堂へ。13～16世紀にかけてつくられたゴシック建築の傑作。ここにはサン・マルタンが起こしたさまざまな奇跡の様子を描いた素晴しいステンドグラスがある。北側のステンドグラスは冷たさや死を表す青、南側は楽しさや暖かさを表す赤が中心。

中世の街並みが続く旧市街。木骨組みの建物（柱が通ってない箱をのせた家）が周囲をぐるりと取り囲むプリュムロー広場にはカフェのテラスが広がり、夜遅くまで賑わうらしい。

旧市街地を通ってサン・マルタン聖堂へ。4世紀トゥールの司教、聖人マルタンを祀ったネオ・ゴシック様式の寺院。地下礼拝堂には聖マルタンの墓が置かれてある。もとローマ軍の兵

士で偉大な司教サン・マルタンは、ローマで公認されたばかりのキリスト教を広めた。生前、彼は人の体から悪魔を取り出すなどの奇跡をおこし、その死後もなお、寺院にある彼の墓に触ると病気が治るという言い伝えがある。現在の建物は 1925 年に新たに建てられたもの。

朝市では、見た事のない野菜や果物がいっぱい並んでいて、活気に溢れている。バナナ 18 本で 5 ユーロ、オレンジ 13 個で 6 ユーロという具合。団員の方も無花果とトマトを買って道端で頬張り、みんな子供頃に戻ったよう。マリーズさんが無花果を皮を剥かずに食べたことにみんなびっくりした様子。

10:40 市場を後に、20 分走ってカーブ Montlouis 工場見学。曇った天気も晴れてくれた。ワイン試飲後、お土産のワインを購入した。カーブは岩壁をくりぬいて掘られたワイン貯蔵する洞窟のことで、今でも家としてすんでいるところも車窓からたくさん見えた。

昼食はトゥール名物と言われるリロンズ（チャーシュのようなもの）を楽しんだ後、2 時半までに旧市内自由散策。その後市内から 30 分ほど離れている甲南学園へ文化祭と香川日仏協会が出展する日本文化展の視察。校門前の畑の横でバスが駐車。運転手さんの腕前にみんなすごく感心した。校内に日本の祭りの屋台をイメージした模擬店があり、焼そばやタコ焼やうどん等が販売され、雰囲気も匂いも日本そのもので一瞬ここは本当にフランスかと疑うほどだった。体育館のなかではダンスが披露され、来場者からの拍手喝采をあびた。

香川日仏協会の展示会は中央棟の 2 階にあり、着物をはじめ、絵画、書道等が展示され、来場者の関心を集めている。

16:00 学校を後にナショナル通りを自由散策。ジャン・ジョレス広場とロワール川を結ぶこの通りは、トゥールの目抜き通り。デパートのギャラリー・ラファイエットを始め、ブティックやカフェが立ち並び、丁度土曜日なので通りは大勢の人で溢れて賑わった。また、警察が見張っている中で行われた若者の街頭ショーや赤いキリンの進行など奇妙な風景に街全体は躍動感といきいき感が溢れていた。

18:00 トゥール市図書館最上階で高松市が主催する答礼宴に参加。ベランダに出たら夕日に輝くロワール川沿いの素晴らしい景色が目に入る。ジャン・ジャルマン市長は日本の皆さんは定年後ここトゥールで老後の生活を送ることを大歓迎だと挨拶した。カクテルにソプラノとダンス、そして忘れがたいみなさんの笑顔！

20:00 答礼宴の会場からトゥール大学のコンサートホールへ徒歩で移動。竹田豊靖氏と甲南学園生徒との和太鼓のコラボレーションによる花リサイタルを観賞に。音楽と太鼓の音のなかで花爛漫へと変わってゆくステージをしばらく見惚れていた。

ショーの後、ホテルへ帰る親善使節団のバスにトマ助役と国際交流担当のアミーロさんが乗り込んで挨拶し、11 月に高松での再会を約束した。

明日サマータイム終了、時計を 1 時間戻す。

10.26（日）トゥール～世界遺産モンサンミッシェル～パリ

朝3時でサマータイム終了、時差8時間に。忘れ物がないか（最近充電器の忘れが多い）再確認して、辺りがまだ暗いなかホテルを出発、フランス北西部のノルマンディー地方にある世界遺産のモン・サン・ミシェルへ。公式団の関係者はホテルの玄関先まで見送ってくれた。さようならトゥール。沢山の感動と思い出をくれた地よ。

朝は霧が深く、周りの景色が霧に覆われ、10メートル先がみえない。モンサンミッシェルへは遠く、高松から名古屋までの距離と同じぐらい。途中高速のインターで無料トイレ休憩。売店でお菓子や携帯ポーチなどゲット。バスが停車している道路側の木の下に栗がたくさん落ちている。それを拾って記念に。妻鹿市議からお菓子の差し入れがあった。

昼食 La Rottisserie Hotel のレストランでイメージと全然違った名物のオムレツを食べてまたバスに乗った。道路両側の野原に牛や山羊が悠々と草を食べている。しばらく走ったら前方にモンサンミッシェルが浮かんでいるように見えてきた。モンサンミッシェル修道院はヨーロッパで最も干満の差の激しい湾にあり、時に海に浮かび、時に干潟に聳える。8 世紀に大天使ミカエルを祀る小さな礼拝堂が建てられてから、岩山はキリスト教の祈りの場として知られ、中世を代表する巡礼地となった。18 世紀、フランス革命の嵐の中で閉鎖され、一時は監獄として使われたこともある。

2 キロもある堤防の途中で一時停車してもらい、大事に持っている市民親善使節団の横断幕を掲げ記念写真を撮っていよいよモンサンミッシェルへ。海風が激しく吹くなか、ガイドさんの説明を聞き、大天使ミカエル・ゴシックとロマネスワの聖堂・ゴシック様式回廊・食堂・地下礼拝堂・巨大な巻きあげ車など一通り見学して、グランド・リュ通りで記念品を買う。日本人団体ツアー客が多くてトイレ大混雑。一時間足らずの見学でもう集合時間。

パリへ帰る途中のパーキングエリアで一回休憩。佐藤さんが差し入れたサブレが美味しかった。ここで初めて蓮井さんがジャンパーをホテルに忘れたことを知った。

夜 10:00 ごろ宿泊のホテル到着。今日は約670キロも走った！みなさんお疲れ様！

10.27（月）ルーブル美術館見学～自由行動

朝起きてホテルの窓からパリ早朝の様子をカメラに収めた。

9:30 ホテル出発。200 年の歴史ある『ミロのヴィーナス』や『モナリザ』をはじめ、35 万点もの作品を保持するルーブル美術館を見学。館内では写真撮影が解禁され、ミロのヴィーナス、サモトラケのニケ、モナリザの三大名物をみんなカメラに収めていた。ナポレオン一世の戴冠式などミケランジェロの作品スケールの大きさに圧倒される。絵の前の床に座り先生の講義を聞いている芸術家のタマゴ。写真撮影禁止をキャンパスに掲げ、名画を模写する画家の姿も見える。さすが芸術の都。

昼食後、自由行動。両替、今日は 83.5 ユーロ。オペラ座の横を通ってラファイエで買い物したり町の景色を楽しんだりした。5 時三越に集合、タクシーで帰る班と地下鉄を体験して帰る班に分かれホテルへ。オペラ座近くの駅から凱旋門まで 1.2 ユーロ。

夕食　Les Noces de Jeannette というレストランで全員揃っての最後の夕食。訪問を滞りなく終えたこと、全員怪我もなく元気であることを祝ってみんなで乾杯！今回の旅行中ずっとスケッチしている蓮井さんがウェイターのスケッチを描いて差し上げてすごく喜んでくれた。

10.28（火）ベルサィユ宮殿（OP）～シャンゼリゼ大通り等自由行動～パリ空港

7:30 出迎えのバスに乗り、オペラ座近くの My Bus というところで下車。しばらく待ってから 8:30 に他のツアー客と一緒に 2 号車に乗り、ベルサィユ宮殿へ。20 キロの道のりで 40 分間掛かる。途中、昨日見たルーブル美術館の横を、そしてパリで一番地価が高いといわれる大通りを通過。建物はほとんど一階ショップ、二階事務所、三階アパートとなっている。

ベルサィユ宮殿到着。気温がすごく低く、吐く息が白く見える。宮殿の中は観光客でいっぱい。人の流れに押されながら止まることもできず、前へ前へとひたすら進む。そして数々の素晴しい珠玉の絵画と彫刻。馬上看花の見学が終わり宮殿を出た。入場券を買う所も入場する所も長い長い列。使節団はグループ予約制で入ったので並ばずによかった。(その代わり決まった時間に出ないとだめ)

12時すぎパリに帰る。昼食は何にするかと言うことになり、全員一致でサッポロラーメンに決定。ちょうど昼なので店の中大混雑。久しぶり日本の懐かしい食べ物、みんな大満足。

フランス人はナイフ、フォークの文化だと思ったが、お箸でラーメンを啜るフランス人をイメージしたらどうも違和感がある。しかし、店の客をちょっと観察してみたらみんな上手にお箸を使いこなせている。七味唐辛子たっぷりかけ大汗をかきながら食べる若い男性も。

昼食後は出発まで自由行動。

16:35ホテルを後にパリ・シャルルドゴール空港へ向かう。飛行機のチケットもEチケットになり、(紙のチケットはこれからもうコレクションかも）免税の手続きを済ませて出国の窓口へ。日本人はほとんど入国出国のスタンプを押されずフリーパスーなので、記念にスタンプを押してほしいと若い出国審査官に頼んだら「If you pay 10ドル」と笑顔でジョーク言いながらスタンプを押す窓口はあちらだよと案内してくれた。

20:20パリ発KE902便でソウル仁川空港経由帰国へ。機内食に恋しくなったお茶漬け、沢庵、果物などが出た。

10.29（水）ソウル仁川空港～岡山空港～高松

10時間のフライトで予定時間より1時間早く14:20仁川空港到着。そして18:25発KE747便で岡山空港へ。20:15 岡山空港からバスで高松へ向かう。バスのなかで解散式。八日間の訪問はこれですべて無事に終わった。

感　想　文

成功裏に終えることができた市民外交

(財)高松市国際交流協会 常務理事・事務局長
団長 塩田　章

10月22日、午後6時40分 シャルル・ド・ゴール空港着。暮れかかったパリの街は灯りがともり始めていた。今年はフランスが欧州連合（EU）の議長国のため欧州連合の色、ブルー色でエッフェル搭もライトアップされ鮮やかに浮かびあがっている。凱旋門の近くのホテルに市民親善使節団一行は旅装を解いた。

翌日、バスで市内視察、パリ発祥の地シテ島には、中世ゴシック建築の最高傑作といわれるノートルダム寺院が天を仰ぐ。オペラ座、コンコルド広場、そして凱旋門へ、ここから放射状に伸びる街並みが、何と言ってもパリ市内の目抜き通りである。シャンゼリゼ通りの街路樹は何となくマロニエの並木のイメージが固定していたが、広い歩道に二列のプラタナスの並木であった、所々が名物のカフェ・テラスになっている美しい大通りである。

パリからトゥール市への行程は、フランス新幹線（TGV）で向かう。駅での改札、発車の合図もなく走り出す。TGVは270～300㎞／時で走る。一面広々とした田園地帯を約1時間でトゥール市に到着のはずであったが、予定のTGVに乗り遅れたため一つ手前の駅で下車することになった。1時間程度の遅れでトゥール市のホテルに投宿できた。明日は充実した一日との思いを強くした。

トゥール市での都市提携20周年を迎える記念式典に公式訪問団とともに出席。式典はトゥール市役所 2 階のとても立派な「祝いの間」で開催され、フランスで活躍しているソプラノ歌手伊藤愛さんが、式典に華を添える。ジャン・ジャルマン市長、大西秀人市長の挨拶は私たちにとって、とても光栄に思うものであった。そして、いよいよ市民親善使節団長としての挨拶、僅か数分間であったが緊張の中、その大役を終えほっとした。

また、今回の訪問中、リセ甲南学園での交流イベントや香川日仏協会が出展した日本文化展などでトゥール市民と交流するなどのひとときを過ごせた。

高松市側からの答礼宴は、世界遺産のロワール河のほとりに建つ市立図書館にて、普段は開放していない最上階が会場ですばらしいロケーションである。

シャンソンの歌声にうっとりしながらワイングラスを傾ける者、ダンスを楽しむ者、使節団にとって至福の時を過ごすことができた。その後、トゥール大学講堂での竹田豊靖先生の花ステージを観賞、日本文化の一端を披露していただき、多くのトゥール市民が感動した。また、ホテル帰路のバスにトマ助役、アミロー国際交流室長が、高松での再会の約束とお別れの挨拶にこられるなど心遣いが伝わってきた。こうしてトゥール市での最後の夜を終えた。

トゥール市は古都らしく落ち着いた風格が感じられる、マロニエとプラタナスの街路樹が歴史的な建造物と調和し、実にすばらしい、そして電柱や看板が無いことが街並みを美しく育てている。高松市も電柱が街中から消えてはいるが、早く全部取除きたいものだとつくづく思う。
そして何よりトゥール市の人達の温かい友情に私達は感激した。

今回の訪問が成功裏に終わることができたのは、参加団員の皆さんが、ご協力くださったお陰であり、心から感謝しております。

高松市 トゥール市姉妹都市提携20周年記念行事に参加して

副団長 川染　節江

（高松市と姉妹都市提携を結ぶ）トゥール市への「市民親善使節団」の訪問は平成20年10月22から8日間の日程で行われました。私は、早くから参加を予定していましたが、香川日仏協会の副会長を務めているため、事前の周知会において、「副団長」という役目を仰せつかり、記念行事ではいささか緊張、落ち着きがたい思いを経験いたしました。10月22日、早朝6時50分にアイパル香川を出発、ソウル経由で夜パリに到着。セーヌ川沿岸のホテルの部屋から夜空に聳え立つエッフェル塔が一望でき「ここはパリ！」という実感を全身で感じとり、親善訪問企画に大きな期待が膨らみました。

トゥール市は、パリからTGVでわずか1時間の距離。旧市内には、古代ローマ時代からのロワール河中流域の中心都市であったという伝統の街並みがあり、ゴシック様式のサンガシアン大聖堂と1925年に造られた新しいサンマルタン寺院との対比が印象的でした。

20周年記念式典は、10月24日夜、市庁舎とは思われないような大理石の瀟洒な建物の2階で開催されました。姉妹都市提携20年間の両市の交流に関った人々が多く招待されていて、香川日仏協会と縁が深かったレモン洋子さんや愛媛県出身の方とも再会でき、フロアのあちこちで、感激的な交流がはじまりました。

歓迎会はトゥール市長、高松市長のスピーチから始まり、1988年提携以来の両市の交流活動の経緯、さらに未来への期待が述べられました。そして、20年前、両市の姉妹都市提携に関った香川日仏協会からは、入野昭三会長の「祝辞」、「友好関係を象徴するかのように　提携直後お互いに贈りあったマロニエが高松市では街路樹に、トゥールの公園では春桜が花を咲かせています。このたび、両市の代表が相互の都市を訪問することは誠に喜ばしいことであり、これまでの両市の経験がさらに深めれ「トゥール市＝高松」から「フランス＝日本」、そして「ヨーロッパ＝アジア」というふうに拡大していくことを心より願う。」ということを私がステージで代読し、藤本良志美日仏協会理事から、トゥール市長に協会からの記念品を贈り友好を深めました。

歓迎夕食会はこのように進み、アペリティフ4種、食事はかぼちゃの帆立貝入りスープ川すずきの赤いバターソース添え、山羊乳チーズとサラダ、デザートはいちじくとアーモンドムースのミニタルト、コーヒーか紅茶（チョコレート付き）、飲物にはたっぷりという豪華版でした。各テーブルに1人は日本人がいてどうにか交流はできたものの、言葉の障害が大きく、語学の必要性を痛感したことでした。

また、郊外にある甲南学園では学園祭にあわせて訪問団員による日本文化を紹介す着物や書道の展示もなされ交流の輪を広げるイベントとなりました。

１か月後には、トゥール市からの訪問団を迎え、高松市の20周年記念行事が開催され、あわただしい中に充実した国際交流の日々が流れ大変貴重な経験となりました。

旅行で、仲間が沢山でき、次への夢も膨らんでいます！

トゥール市訪問の思い出

谷本　義隆
谷本　公子

このたび、日仏交流150周年という記念すべき年に、姉妹都市提携20周年記念市民親善使節団の一員としてトゥール市を訪問する機会に恵まれ、素晴らしい体験や見学ができましたことを大変うれしく思っております。

パリから南西に、新幹線（TGV）で広大な田園地帯を走ること約70分、ロワール川中流域に拓けたトゥール市は人口約14万人の都市で、そのうち約12,000人が学生とのこと、駅前や目抜き通りは若い人達で活気に満ちていました。

この町の中心は14～15世紀に建築された木骨組みの家（今の２Ｘ４建築のような構造で2階，3階と上に行くほど道路のほうへせり出している）に囲まれたプリュムロー広場である。お花やお菓子、そして画材、カフェなどのお店が、それぞれにおしゃれな雰囲気で軒を並べていました。一方、中央市場横の空き地では市場（marche）が開かれ大勢の市民や観光客で賑わっていました。我々も早速お客に早変わり。興味津々で見て回りましたが、パン類は大変安く、ぶどうやイチジク、かんきつ類は美味しかったですヨ。　また、ゴシック様式のサン・ガシアン大聖堂（13世紀に着工、16世紀に完成）は修復中でしたが、中のステンドグラスは見事な色調を作り出していました。

トゥール市は、ロワール古城観光の拠点としても有名です。
6人のお妃がそれぞれ長い時間をかけて築城した（16～19世紀）というシエール川の上に建てられた「シュノンソー城」とその広大な庭園、レオナルド・ダビンチが考案したのではないかといわれている二重螺旋階段がお城の中にある「シャンポール城」、車窓からの見学になった「プロア城」や「アンボワーズ城」など実に美しい姿をロワール川に映していました。

川沿いに作られたワイン蔵（CAVE）の見学も貴重な体験でした。

10月24日は市庁舎で歓迎夕食会が行われました。進行は、歴史を感じさせる素晴らしい天井彫刻のあるホールで両市長の挨拶、記念品の交換、今後の交流発展を願っての乾杯、そしてパリで活躍するソプラノ歌手、伊藤　愛さんのリサイタルを聞きながらの懇談となりました。私たちのテーブルは、竹田豊靖さんのグループの皆さんと一緒となり、明日に控えた会場の準備の大変さなどお聞きしながらの楽しいひと時を過ごしました。（セレモニーのスタートがフランス時間とかで午後８時を過ぎ、皆さんほんとうに疲れましたね・・・・。）

翌25日も天気に恵まれ、トゥールの古い歴史を巡る市内観光を行いました。昼食はもう食べ慣れてきたフランス料理三点セット。ナショナル通りのロワール川を越えたところにある「Bistrot de La Tranchee」でのメニューは、トゥール名物リロンズとレンズ豆の前菜・牛肉・焼洋梨でした。スープも珍しく出て食べ過ぎてしまいました。

夜は答礼宴。市図書館の展望ホールで行われましたが、眼下には美しいロワール川を見下ろし、町には夕日をいっぱいに受けたサン・マルタンバジリカ聖堂が輝いていました。この素晴らしいロケーションに始まる前から感激。大西市長さんと菰淵議長さんがホスト役を務められる中、素晴らしい演

奏に歌、後半はダンスで一気に盛り上がりました。その後は、会場を移して竹田豊靖さんの生け花と和太鼓のコラボレーションでショータイムを楽しみました。お見事な演技でした。（トゥールの人たちに日本文化がわかってもらえたかな？）

なお、答礼宴の会場には、1994年から3年間、高松市の国際交流員としてトゥール市から派遣されていた　ソフィー（Soplhie LE BERRE）さんもパリから駆けつけ、近況を伺うことができたことも大変よかったと思います。

最後になりましたが、お世話になった皆さんに心からお礼申し上げます。

有意義であったはじめてのフランス旅行

蓮井　久夫

今回縁あって「高松市・トゥール市姉妹都市提携20周年記念市民親善使節団」の一員に参加させていただき、現地の人々との交流など、この様な機会でなければ得られない貴重な体験もでき、大変嬉しく思っております。

フランス旅行は初めてでもあり、期待に胸をときめかせ、先ず空の玄関ロドゴール空港に降り立ったのは、11月22日の明かりが点る夕闇迫る時でありました。ホテルの窓からはライトアップされたエッフェル塔・凱旋門等の夜景が眺められ感激。パリーの街並みには、いたるところ彫刻や銅像などが見られ、又セーヌ河には、ゴミなどの浮遊物は一切なく清らかな流れを目にし、フランスの文化・歴史の深さ重みを感じ、見習うもの多々。

トゥール市では、市長様はじめ市民の方々の暖かい歓迎を受け有意義な交流ができまた、郊外のロワール河添いの古城巡り・ワイン工場見学など楽しい想い出ができました。

これからも日仏文化交流（両市の）一層深まることを期待いたしました。

市民親善使節団に参加して

佐藤　久美子

ソウル空港から12時間余りの空の旅を終え、パリ・シャルル・ド・ゴール空港に到着。入国審査を終えホテルに直行ライトアップされたエッフェル塔・凱旋門に出迎えられホテル到着。

翌日はバスの車窓よりパリの街並を見学。下車して写真を撮ったり、又、ノートルダム寺院を見学し、巨大なステンドグラスに圧倒された。そして新幹線にてトゥール市へと思いきや、教職員のストの為に道路が閉鎖され迂回をして駅に着くが少しの差で予定していた列車に乗れず悔しい思いをした。モンパルナス駅にて50セントを出しトイレを経験そしてトゥール市へ。

三日目は豊かな自然そして田園風景に溶け込んでいる雄大なロワール河のほとりに広がる優美なシュノンソー城、剛健なシャンボール城を見学。車窓よりブロア城、アンボワール城等々、城を権力の象徴とした裕福な貴族達が競うように築城した装飾的な古城をながめながら一日を過ごした。そして、夜は今回の第一目的である「高松市・トゥール市の姉妹都市提携20周年記念」の歓迎夕食会が支庁舎で行われた。伊藤愛さんによるフランス歌曲リサイタルを聞きながら、心地好い歌声とワインとおしゃれな食事に楽しい時間を過ごした。

四日目は遠く親元を離れ、異国の地で寄宿舎生活を送りながら学んでいる甲南学園高校の文化祭に参加、体育館では楽しそうにパラパラを踊る生徒達、校庭ではバザーのたこ焼、焼きソバ、うどん等を実演販売している生徒達、のびのびと学校生活を楽しんでいる笑顔の生徒達が頼もしく思えた。

夜は図書館にて答礼宴、図書館のベランダかたの夕暮れに広がる夕日に映えたトゥール市街の景色はすばらしい眺めしばしうっとりでした。

そしてシャンソンの生歌、ダンス等と楽しい時間を過ごし、場所を移して竹田豊靖さんのステージをキャンバスに大胆かつ斬新に「花と和太鼓」のショータイムすてきな夜でした。

五日目は海に浮かぶ聖なる修道院、モン・サン・ミッシェル目指してバスはひたすら走る。聖ミカエルの命により海に囲まれた円錐形の複雑で小高い岩山の上に小さな礼拝堂を建てたのが始まりとか奇観に圧倒された。

六日目の午前中はルーブル美術館にてミロのビーナスやモナリザ等に対面。

七日目も豪華なベルサイユ宮殿と幾何学模様の庭園を散策、午後は両日とも自由行動、それぞれが思い思いにパリの街並を楽しんだように思われる。

パリは世界的な観光都市だけあり、旅行者を飽きさせない魅力一杯の街、友に誘われ急遽参加したために事前の学習を怠たり後悔の念が少し残るが次の機会に楽しみを残し、色々な人達との出合い、巡り合いそして楽しい旅に感謝し無事に有意義な旅を終えることができました。

高松市とトゥール市との姉妹都市提携二十周年のお祝いに参加して

小倉　聡子

10月24日の記念日にトゥール市役所の2階でお祝いの会がありました。
丁度それに具合良く参加できる様なスケジュールを、JTB やお世話してくださる方が企画して下さったので、ベルトコンベアー乗りの状況で行って来ました。

高松→岡山→ソウル→パリと乗り継ぎ、パリ→トゥールはあの TGV で行く予定が、市内の教員デモで道路が通行できず、遠回りでの駅到着で乗り遅れるというハプニングを、経験しつつも、なぜか危機感もなく無事予定通り終了しました。

翌25日は答礼宴があり、図書館の二階でキーボード伴奏のオペラアリアや、なつかしいシャンソンを数人の女性ボーカリストが奏でて下さり、珍しい大西市長の社交ダンスも拝見しました。楽しそうでした。

翌日は又、市内見学で市場に連れて行ってもらいました。新鮮な果物・野菜・花・たくさんの種類のチーズ・パン・パスタ。とてもワクワクした所でした。

前代未聞の円高で、買い物にぴったりな数日の仏滞在の割に何も買わず、帰宅してからの友人達との会話は「何も買ってないわ。」「えーっ？」の連続です。

仏語など全々わからないのに、よく市民親善使節団として参加できたな。というのが行く前からの心配でした。でもそれなりに皆様と一緒にあちこち連れて行って頂き、とても楽しい数日でした。

ボンジュール　トゥール！

香川日仏協会理事
藤本　良志美

「あら、良志美さん。まさか、今日トゥールであなたと会えるとは！サプライズですね。」パリからTGBで夕方トゥール市へ着き、ホテルのロビーでお会いしたトゥール市国際交流担当のアミーロ女史のびっくりした第一声でした。

私は、高松市の国際交流担当として、トウール市を何回か訪問のたびに、トゥール市でアミーロ女史にお会いしていました。退職した今回は、訪問することを伝えてなかったのですが、やはり同じ仕事をしていた者同士、お互い懐かしく話が弾みました。（残念ながらフランス語ではなく英語でですが。）

1989年に、高松市はフランス・トゥール市と2つ目の海外姉妹都市提携をし、私はその当時の担当者でした。新しく出来たばかりの高松市美術館講堂での提携式は、両市代表の提携書サインの後、関係者30人程が日本のワインで乾杯して簡潔ながら優雅なティーパーティを行ないました。

この姉妹都市提携は、香川日仏協会が在日フランス領事と共にトゥール市を高松市に推薦した経緯から、今回の20周年記念の市民親善訪問団には、香川日仏協会として、川染先生と共に参加しました。

トゥール市は、人口27万人で、浪々と水が流れるロワール川沿いの多くの古城の観光拠点とした観光都市として有名です。

6人の女性達の歴史を残すシュノンソー城や王の狩のために造られた美しいシャンボール城など、なんど訪れても飽きない素晴らしい風景で、このような古い建造物や自然の緑が美しいトゥール市を本当にうらやましく思います。

歓迎夕食会は、公式訪問団の大西市長達と共に出席して、トゥール市役所の壁画の素晴らしい大広間で行なわれ、美味しいフランス料理を満喫しました。

ここでも、トゥール市で活躍している日本人達の、バレール・範子さん、岡山出身のクレオラ・美紀さんなど懐かしい人達と再会を喜びました。

また、トゥール市のトマ助役、トロシュー助役、そしてチョコレート店主のドローネ夫人達がにこやかに声を掛けてくださったり、抱擁してくださったり。国は違っても、人と人の友情は変わらないものだと改めて感じました。

市民使節団の方々とは、8日間、食事も行動も共にし、一緒に笑い合う家族のような楽しい充実し

た旅行になり、皆様一人一人に感謝しています。

パリに着いた初日に換金した1万円が70ユーロだったのが、毎日が円高となり、最終日にまたパリで換金したら、1万円がほぼ80ユーロになったという、私達にとってはうれしい旅行になり、お土産を買う財布の紐が緩んだ仲間も多くいたようです。旅行の企画をされた市国際交流協会と私達にいつもニコニコと接してくれた添乗員の富士川さんに心からメルスイボック！！

親善訪問感想文

椿　登紀子

今回の親善旅行ではたくさんのなつかしい友人や知人ジャンフランソワさん、ジャンルイさん、ソフィーさん、クロディーヌさん、レモンよう子さん、クレオラみきさん、三好えりさん、保井まどか先生、高松出身パリ在住の野崎たくみさん、河野のりこさん達に再会でき、たいへん嬉しかったです。

また、ソフィーさんとパリのサンジェルマンデプレを散歩していた時、偶然シラク前大統領に会い、握手してくださり、ＳＰガードマンが写真を撮ってくれました。とてもラッキーでした。

香川日仏協会姉妹都市 20 周年記念グループ展の準備は 1 年前からしてきましたが、予定していた染色着物の先生が転倒され、行けなくなりキャンセルされたとき、すでに衣文賭け 8 個等送った後でした。会場のトゥーレーヌ甲南高校にはトゥール市役所からすでに着物展示用 2 メートルのテーブル 10 個が届いていました。20 メートルの空間を埋めなくてはなりません。急遽予定変更して娘や息子の七五三の着物や私のゆかたと義父の 90 年前の秋祭り用法被と子供用法被や着物文化に付随する小物、風呂敷、うちわ、扇子、巾着袋、ミニ羽子板、手ぬぐい等を友人 3 人で分担して運び、日本式結婚式や結納や家紋やお宮参りや七五三や秋祭りの着物や法被の写真も展示し、20 メートル以上使っての着物展ができました。

トゥール市役所から展示用パーテーションをお借りして絵画は池崎光月さん(日本画)、豊嶋章子さん(水彩画)、笠井寿子さん(アクリル画)3 名で 9 点、書道、掛け軸は田村篤さん、山下久子さん、石川郁代さん 3 名で 9 点計 18 点。書道の翻訳も大変でしたが VIVIE 先生の助けを借り皆さんそれぞれ完成されました。

色々たいへんでしたが、フランス人のお客さんはたくさん来てくれました。特に風呂敷のモチーフ、たくさんの家紋は多くのフランス人が興味をしめしました。

トゥーレーヌ甲南高校の保井教頭先生には大変お世話になりました。感謝しております。

保井先生のお話では　グループ展は大変好評だったそうで 10 月 25 日 25 日の 2 日間で 1,000 人ぐらいのお客様が観に来てくださったそうです。ほんとうにうれしかったです。

フランス旅行を終えて

田尾　尚子

香川日仏協会の一会員として、今回「市民親善使節団」に加えて頂きました。
トゥーレーヌ甲南学園で開催されたグループ展の準備をお手伝いさせて頂いたこともあり、私にとって、意義深い貴重な体験となりました。

今回の旅行には2つの要素がありましたが、一つは、パリをはじめロワールの古城モンサンミシェルなどを巡る観光、そしてもう一つが、高松市とトゥール市の姉妹都市20周年記念行事です。

観光は全体的にゆったりとした行程で、慌しく多くの場所を巡るよりもむしろ良かったであろうと思います。比較的少人数であり、また一般の観光ツアーとは少し違った内容の旅行であったためか、グループに終始一体感があり、雰囲気も非常に和やかでした。

トゥール市においては、記念式典と歓迎夕食会（24日）、答礼宴（25日）がそれぞれ異なる趣向で催されましたが、私個人はこのような機会でもない限り経験できるものではありません。歓迎夕食会で、両市の姉妹都市提携に尽力されたレモン・ヨーコさんと同席させて頂き、現在の両市間の交流も含め、大変興味深いお話を伺うことができました。また、トゥール市のブランディーヌ・モローさん、高松市議会議員の山崎数則先生には、日本とフランスの地方議会の違い等について教えて頂く機会を得、非常に有意義な晩餐となりました。

今回の記念式典に合わせ、香川日仏協会会員の方々のグループ展も、トゥーレーヌ甲南学園で開催されました。私は、18点にのぼる作品の荷造りや一部の作品の注釈のフランス語訳、また展示会当日に会場のトクーレーヌ甲南学園で、その展示をお手伝いさせて頂きました。甲南学園の先生方や学生さん達の手もお借りして、なんとか出来上がったという感じです。こうした作業は想像以上に大変ではありましたが、25日、26日の2日間に渡って開かれたグループ展には多数の来場があったと聞いております。

パリから僅か1時間弱のトウール市は、自然に恵まれた美しい街でした。残念ながら私は、今回の旅行では十分回りきれていません。是非もう一度、この街をゆっくり訪れたいと思っております。

20年の間に、高松市とトゥール市の間では様々な形で交流が続き、今後も同様であろうと思います。今回の旅行にご一緒させて頂いた皆様とも、また交流の機会が持てれば幸いです。

市民親善使節団に参加して

高松市国際交流協会事務局員
何　燕萍

2008 年 10 月 22 日、私たち使節団一行は大韓航空 762 便に乗り、モンゴル、ロシアの上空を通ってパリへ。12 時間後、機内から美しい夕日を見ながらパリ・シャルルドゴール空港に無事着陸。

翌日一日観光。憧れの街パリ！バスの車窓から東洋とまったく趣の違う建築群、街の風景、人々の表情、前後隙間なく駐車している乗用車の列に目を奪われながら、写真でしか見たことのないエッフェル塔、コンコルド広場、ノートルダム大聖堂等を見学して、夕方モンパルナス駅から TGV で姉妹都市トゥールへ移動した。

10 月 24 日、朝からバスでの古城巡り。車窓から見たのどかな田園風景、おとぎ話の中にいるかのような可愛い住宅、収穫後の葡萄畑。シュノンソー城とシャンボール城では遥か昔に思いを馳せながら、その素晴しさに感動。その晩、彫刻と絵画が施されたトゥール市庁舎で歓迎夕食会が行われ、席上、両市親善 20 周年記念品を交換して更なる交流を約束した。ヨーロッパ映画のパーティーシーンにいるようで、素晴しい思い出となった。

トゥール市での二日目は、サンガシア大聖堂、旧市街地、ワイン貯蔵カーブを見学。朝市では、大きなかご（ポリ袋使わない）を提げながら買い物する男性の姿はすごく印象的だった。街散策中ストリートダンスを披露している男子大学生に出会い、振り付けと表情の滑稽さに腹を抱えて笑わずにいられなかった。その傍に、花束とバゲットを抱え、ダンスを楽しそうに見ている老夫婦もすごく素敵に感じた。

午後、甲南学園の文化祭視察。賑わった来客の中、日仏協会が出展した日本文化展に熱心に質問するお客さんもいた。夜、トゥール市図書館の最上階で答礼宴があり、夜景、歌にダンス、忘れがたい楽しい一時であった。その後トゥール大学のコンサートホールで竹田豊靖先生と甲南学園生徒和太鼓チームとの共演を観賞し、尺八の悠揚たる音色と和太鼓の響きの中、花爛漫へと変身していくステージに見惚れた。

トゥール市での公式行事が終わった後、世界遺産のモンサンミッシェル修道院、ルーブル美術館そしてベルサィユ宮殿を駆け足で見学し、フランスの歴史・文化の薫りを満喫した。

今回事務局として使節団に同行して素晴らしい体験ができたことを大変嬉しく思い、皆様に心から感謝するとともに、短い滞在で受けた異文化刺激を反芻、消化しながら、これからの仕事に活かしたいと思う。